

No.720 November 2016

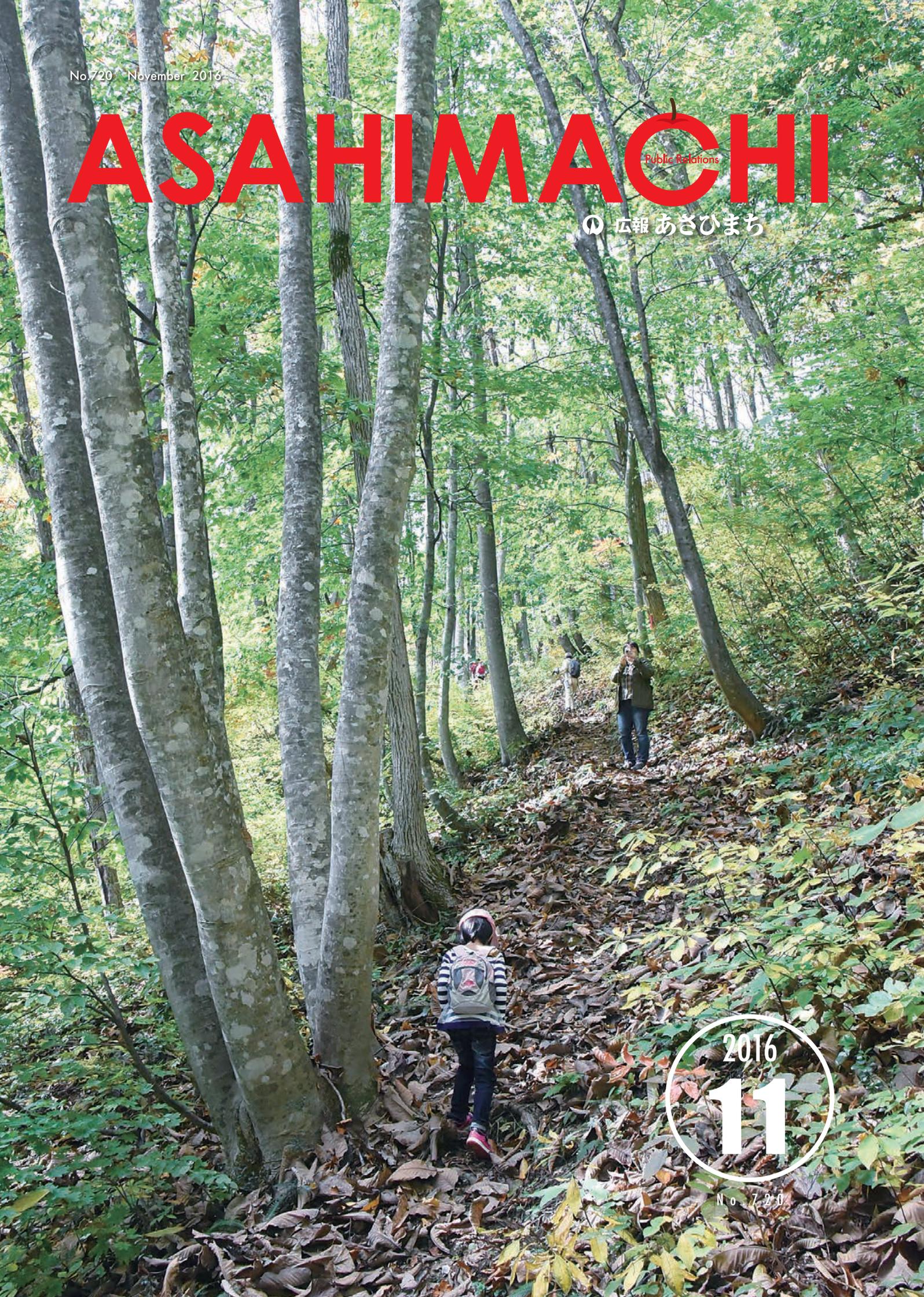
ASAHIMACHI

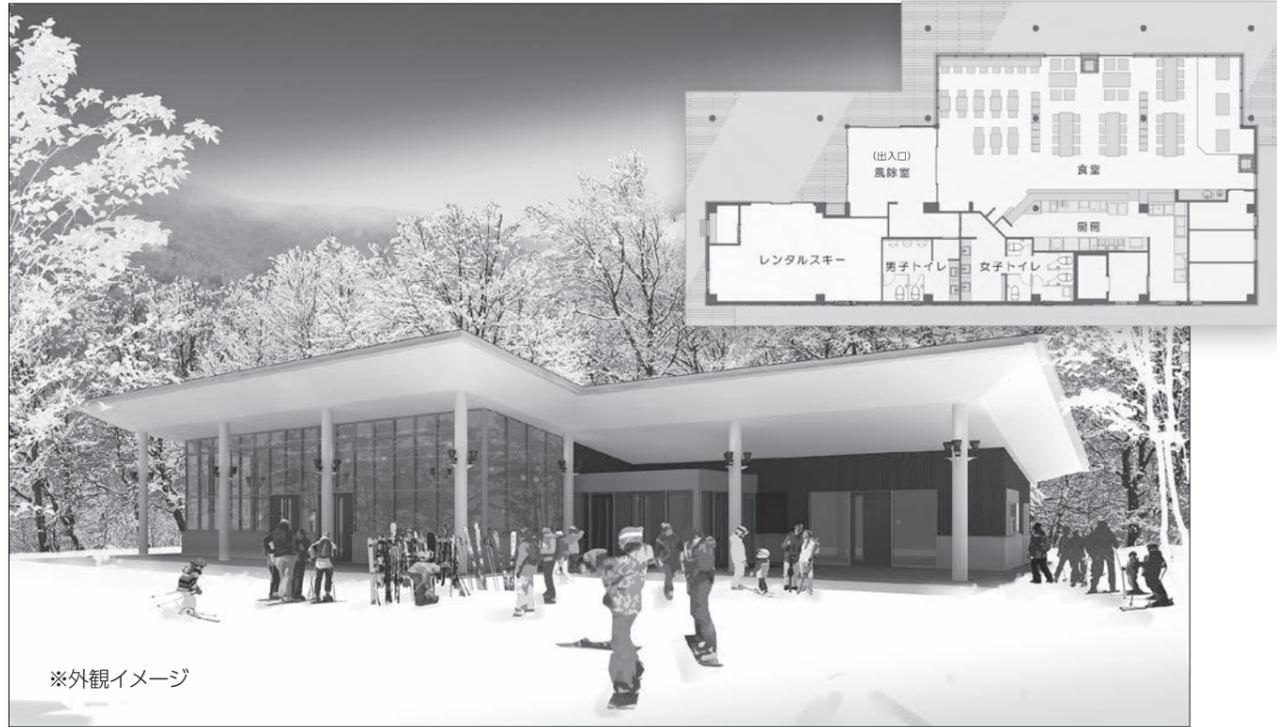
Public Relations

④ 広報あさひまち

2016
11

No. 720





※外観イメージ



全面ガラス張りのレストランと、ゆったりとしたレイアウトで開放感たっぷり。

新「ロッジしらくら」、12月17日OPEN!



新たにデザインされたロゴ

昭和57年に建設されて以来33年間、Asahi自然観スキー場の顔として愛されてきた「ロッジしらくら」。近年、施設老朽化や、トイレ設置場所等の問題があり、町では今年度から新たな施設の整備を進めてきました。リニューアルした「ロッジしらくら」は12月15日の竣工式の後、12月17日のスキー場開きと合わせてオープン予定。安全・機能性の向上のほか、Asahi自然観交流観光推進施設として、オールシーズンの利用に対応します。看板となるロゴを新たに設け、内装のサイン（案内板）もデザインを統一。施設は鉄骨造平屋建て、面積は4011㎡。建設費用は約1億4600万円。レストランとスキーサービス拠点、2つの機能を有します。レストランは、食事をしながら

らゲレンデや蔵王連峰を望めるよう全面ガラス張り。また、テラスとレストランを一体利用できる造りとなっています。家具は町内企業製を使用し、子どもや女性に優しい施設として、靴を脱いでゆったりできるキッズコーナーの設置や使いやすく快適なトイレとしました。暖房設備はペレットストーブを使用し、環境にも配慮。さらに、無料でインターネットに接続できるフリーWiFiを備え、ゆったりとした空間で快適に過ごせます。スキーサービス拠点としては、これまで各所に点在していた「レンタル受付」「スキースクール受付」「リフトチケット販売機能」を施設内に集約。より利用しやすくなりました。

Asahi自然観スノーパークに足を運んでいただき、新しくなった「ロッジしらくら」をぜひご利用ください。

▼問合せ先

Asahi自然観

☎83・7111

総合産業課 交流観光係

☎67・2113

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
新「ロッジしらくら」、12月17日OPEN!
- P4 特集
あさひのママ・パパ応援団
- P10 町政スポット
・平成28年度 自治功労者等表彰式
・「最上川さくら回廊」植樹式
・青少年健全育成町民大会 ほか
- P12 平成27年度 決算報告
- P14 まちレポ
・第33回アップル町民駅伝競走大会
・第52回朝日町芸術文化祭
・大谷連合区「芋煮会」
・絆と交流深めた 朝日中文化祭 ほか
- P20 第19回ひめさゆり俳句大会
- P21 それいけ 協力隊とウサビ、町立図書館コーナー
- P22 健康あさひるばんざい、大谷小6年生「お仕事の授業」体験学習
- P23 戸籍のまど、友好の町七ヶ浜町で「文化交流」
JAによるカーブミラーの贈呈式
- P24 ブナの森に小人の村があらわれた!

表紙の写真



10月22日、高田山ブナ林探索会に参加しました。高田区の地区行事を兼ねて毎年6月に開催されている探索会。昨年からは新たに、町エコミュージアム協会の「ふるさとミニ紀行」として紅葉の季節にも開催されています。当日は気持ちの良い秋晴れ。緑から少し色を変えた山の表情と、参加者の皆さんの笑顔に癒された1日でした。

町長歳時記 (125)

努力精進、そして勇気を持って一歩前進

第52回朝日町芸術文化祭が11月3日、創遊館、西部公民館、北部公民館を会場に、そして当日午後7時からは杉山公民館において移動芸能発表会が開催されました。

昨年までは式典が昼の12時過ぎから創遊館ホールで開催されておりましたが、今年は午前9時30分から執り行われ、厳粛な上にも「これから芸文祭が始まるんだ」という高揚感がホール全体から感じることができました。長年慣習的に行われてきたものを変更するのは、なかなか大変なものがあります。積年の課題・問題を検討・整理した中で、新たな取り組みを行った芸文協の皆さんの勇気に、敬意と感謝を申し上げたいと思います。

また、途中からではありましたが、杉山公民館にお邪魔して、地区の皆さんのみならず近隣集落からもお出での皆さんと一緒に、芸能発表を堪能させていただきました。ちょうど民謡発表の真っ最中で、会場全体に包まれた演者の方の想いと気持ちに全身にひしひしと伝わってきました。日々の稽古や研鑽の中で、こんなに素晴らしい歌声を築き上げてこられた皆さんの努力とがんばりに深く胸打たれた思いでありました。

このように多くの町民の方々が、各々の道で努力精進を重ねられ、さらには、そのような中にも楽しく活動されている姿こそ、私たちが目指す「地方創生」そのものではないかと実感したところがあります。

開会の式典中、表彰を受けられた方を代表して大谷の鈴木記念子さんが茶道の祖千利休の言葉を紹介してくださいました。

「苦手なもの、大変だと思うこと。そのことが自分の師匠になる」

努力精進、そして勇気を持って一歩前進することを体現できた芸文祭でありました。

朝日町長 鈴木浩孝

町の子育て支援体制を確認!

妊娠期

- ・妊娠届を提出
- ・母子健康手帳の交付/マタニティ相談



交付者すべてに保健師が個別相談を行います

- ・マタニティママサポート講座 (年3回)
(助産師による講話やおむつ替え・沐浴の体験など)
- ・妊婦一般健康診査助成
(健康診査14回分、超音波検査4回分などに対して費用の一部を助成)

出産・乳児期

- ・出生届を提出 (生まれた日を含め14日以内)
- ・新生児訪問
(すべての家庭を保健師が訪問し、体重測定や育児相談をお受けします)
- ・すこやか出産祝い品の贈呈
(町から祝い品として、町内事業所のギフトカタログからお好きな商品を贈ります)
- ・児童手当 (中学校卒業まで) の支給
- ・子育て支援医療証の交付
(中学3年生まで医療費が無料になります)
- ・すくすく健診
(4カ月、10カ月、1歳6カ月健診)
- ・未熟児養育医療制度
(入院の必要がある未熟児の医療費を援助します)
- ・ブックスタート
(読み聞かせ、絵本のプレゼントなど)

幼児期

- ・予防接種事業
(ヒブ、小児用肺炎球菌、BCG、麻しん風しん、水痘、日本脳炎など)
- ・任意予防接種助成
(おたふくかぜ、季節性インフルエンザ)
- ・あさひっこ健診 (3歳児健診)



※町の支援について、詳しくは、届出時に健康福祉課窓口で配布している「子育てガイドブック」をご覧ください。

すべてのママの相談役
妊娠届を出して、母子健康手帳を受け取る。ママへの第一歩を踏み出したあなたに、温かい笑顔で「おめでとうございます」と声をかける人がいます。町の保健師さんです。
「子育てへの思いや悩みは千差万別。声に出さない、見えないシグナルにも気付いて支えてあげられるような、そんな存在でありたいです」
彼女たちは母子保健コーディネーター。すべてのお母さんが安心して子どもを産み育てられるように、妊娠から出産、育児まで、切れ目のないサポートを心がけます。最初の顔合わせとなるマタニティ相談では、まずアンケー



「私たちが、あなたの母子保健コーディネーターです」。町保健師の太田律さん(右)、川村美里さん(中央)、児玉晴枝さん(左)

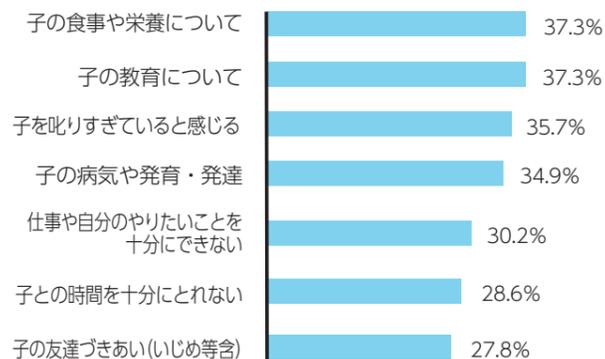
トを依頼。そこには、「妊娠・出産は何回目か」「今回の妊娠は、望んだのか」「育児について相談できる人が身近にいるか」「配偶者は家事に協力的か」など、細かな設問が並びます。毎月の測定会や相談会で直接対面するのはもちろん、妊婦健診の記録や

◆町保健師への相談
健康福祉課 健康推進係

☎67-2116

入院・通院の情報、子どもの予防接種状況まで、医療機関と連携して把握。心配なことや気がかりなことがあればこちらからご家庭に連絡を取り、声をかけることもあります。
「誰かに一言声をかけてもらえただけでも、ほっとしたり、よし頑張ろうって思える方は多いはず。私たちがちゃんとあなたの子育てを応援しているから「一人じゃないよ」と知ってほしいです。どんな些細なことでも、気軽に相談してくださいね」

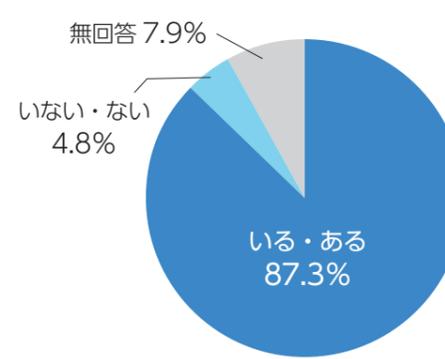
Q. 子育てに関して日頃悩んでいること (複数選択可/上位7項目)



あさひの
ママ・パパ応援団

「弟はよく食べるんですけど、お兄ちゃんあまりご飯を食べなくて...」「食ベムラ」の時期かな。根気強く、まずは色んなメニューを出して試してみよう。好物が見つければ、そこから食べることに興味湧いてくるはずですよ」
11月4日、子育て支援センターあさひで、月に1度の「こども相談日」(写真上)が行われていました。身体測定で子どもの発育状況を確認したり、気になることは助産師や看護師、保健師にその場で相談できます。
「センターに遊びに来たついでに立ち寄るので助かります」と利用者の高橋裕子さん(大町)。事前連絡すれば個別相談も可能。町ではこのような相談会のほか、子育てに関する様々な支援を行っています(左表)。改めて確認し、活用してみませんか。

Q. 気軽に相談できる人、場所があるか



朝日町「子ども・子育て支援事業計画」策定に係るニーズ調査(平成26年2月実施)より
【未就学児童の親: 126人が回答】

「育児に大変さや不安を感じることはありませんか?」
町の子育て世代へ向けた調査(きらきらあさひ健康プラン21アンケート)では、この質問に「はい」と答えた人の割合が平成13年で55%、平成23年には75%に増加しています。金銭的な負担はもろろんですが、近年は「誰にも相談できない」「親同士で集まれる場がない」など、育児に孤独感や孤立感を覚える人が増えているのではないのでしょうか。今月は、そんな悩めるママ・パパを支える、身近なサポーターについて紹介します。

まずは自分から一歩踏み出して

平成13年から15年間、主任児童委員として主に子どもたちの見守りや、学童保育をはじめ、子育て環境の整備などに携わってきました。

近年の子育て環境は大きく変化しています。昔は3世代同居が当たり前でしたが、特に若い世代で核家族化がすすみ、町でも3歳未満の託児需要が増えています。保育施設の拡充は進んでいるものの、全国的にこの問題は続くでしょう。でも、「だから子育ては大変」なのでしょう。

行政の子育て支援は昔より確実に充実しています。ただ、厳しいことを言えば、周りは「勝手に助けてくれない」。相手が「～してくれない」だけでなく、まずは近所の方と話しをして、子どもとあなたの名前を覚えてもらってください。それが「安心」につながります。勇気を出して踏み出せば、家族以外にも、いざという時頼れる人や弱音を吐き出す場所が見つかると思います。この町には優しい先輩ママがたくさんいますからね。



主任児童委員で子育て支援に尽力
小林秀子さん（西町）

◆行政相談（母子父子・子育てなど児童関係の相談）

実施日…隔月 第2木曜日
時間…午後1時～3時
(各種相談日の内容・日程は、毎月16日発行の「お知らせ板」で告知)
場所…開発センター 相談室
その他…児童関係の相談は民生児童委員が行います。
問合せ先…健康福祉課 福祉係
☎67-2156

「読み聞かせ」で親子のふれあいを

読み聞かせサークル「おはなし会 ぶなの実」として、町立図書館や子育て支援センターで「おはなし会」をしたり、図書館スタッフとして、町の子育て事業「ブックスタート」（9頁に詳細）をお手伝いしています。

読み聞かせで大切なのは「コミュニケーション」。ぎゅっと抱きしめたり、目を合わせて笑うだけでも、赤ちゃんはママからの愛情を感じて安心します。それにカラフルな絵や面白い発音にあふれた絵本は、赤ちゃんにとって大きな刺激。言葉はわからなくても、興味津々で聞いてくれますよ。

「おはなし会」では読み聞かせのほか、パネルシアターや人形劇など楽しい出し物を準備しています。参加は0歳から年齢制限はありません。ぜひ一度足を運んでください。

また、図書館には約1万冊の絵本や児童書のほか、育児に関する本もたくさん置いてあります。窓口にご相談いただければおすすめの紹介もできますので、こちらもぜひ活用してください。お待ちしております。

◆おはなし会

実施日…毎月 第2土曜日
(1日発行「お知らせ板」で日程告知)
場所…町立図書館
問合せ先…おはなし会ぶなの実
(代表：登坂ひかる)
☎67-2458



「おはなし会 ぶなの実」代表
登坂ひかるさん（ハツ沼）

知らないから「不安」、知れば「安心」
相談で特に多いのが母乳についての悩み。「母乳が出ない」「うまく飲ませられない」など、深刻に捉えてしまいがちですが、母乳って「産後すぐには出ないもの」なんです。赤ちゃんに何度も吸ってもらって、ホルモンが分泌されることでようやく出るんですね。

助産師というと「産前・産後のケアだけでしょ?」と思われる方が多いのですが、実は母子保健の専門家として、「女性の心と体の悩み全般」をサポートするのが助産師の仕事。思春期から、育児をはじめ母乳などの体に関する「ママ」の悩み、そして、歳を重ねて更年期まで、女性の一生をすべてのポイントでケアします。

女性特有の悩みはすべておまかせ
町立朝日病院に勤務していた頃に「パパママ学級」という子育て講座をしていて、退職後は昨年度から、町の「子ども相談」や「女性の健康相談」を担当しています。

地域の子育てサポーター
地域でも、子育てするママ・パパをあたたく迎え、見守ってくれている方がたくさんいます。1人で抱えこまずに、お話しに来てみませんか。



助産師
鈴木 正子さん（大町）

外に出る「きっかけ」
相談日は身体計測も含めて毎月20組前後の利用がありますが、気になるのは一度も参加のないママのこと。特に初産の方や、核家族で普段赤ちゃんと2人きりという方は、外に出る「きっかけ」程度に、気軽に足を運んでみてください。あなたの悩みは、もしかしたら全然心配しなくても大丈夫なことかもしれません。

どうしても外に出られないという方は、町の保健師さんに一言声をかけてください。相談日以外にも、電話での相談受付や、保健師が全家庭に行く「新生児・乳幼児訪問」に同行することもできます。少しでも気になることがあれば、気兼ねなく呼んでくださいね。

人によっては1〜2カ月かかることもあります。また、うまく飲んでもないという悩みも、抱っこ仕方ひとつで解決することが多いです。「知らない」から「不安」になるけど、知ってしまえば悩むこともなくなります。

各種相談会で女性の悩みをサポート



「子ども相談」

お子さんの身体測定と健康相談のほか、毎月内容の違うミニ講話があります。

- ◆実施日…毎月1回（第1金曜日）
- ◆場所…子育て支援センター
- ◆その他…個別相談可能。事前連絡（☎67-2116）まで。

「女性の健康相談」

女性の心身の健康について、助産師が相談を行います。事前予約制で、個別面接です。

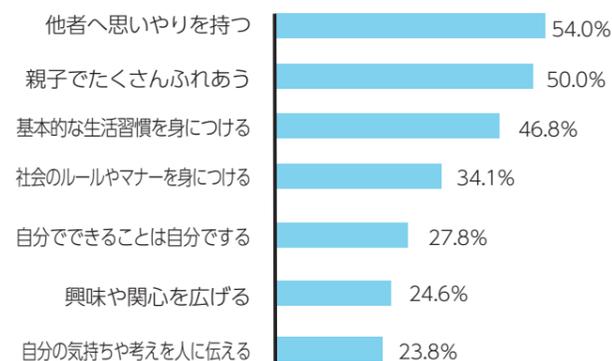
- ◆実施日…毎月1回（第1金曜日）
- ◆場所…子育て支援センター
- ◆その他…実施日の2日前までに要予約（☎67-2116）。

「こころの健康相談」

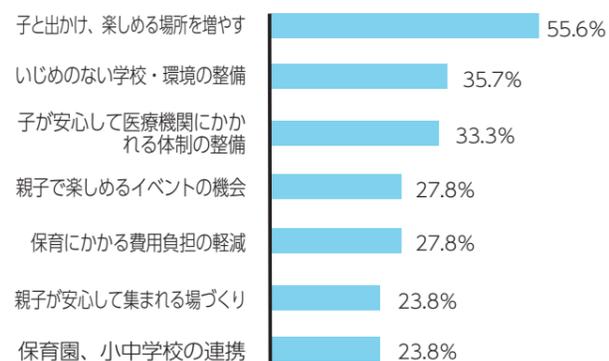
臨床心理士が、お子さんの成長発達や育児の悩みについて個別相談を行います。事前予約制です。

- ◆実施日…年3回
- ◆場所…子育て支援センター
- ◆その他…実施日の2日前までに要予約（☎67-2116）。

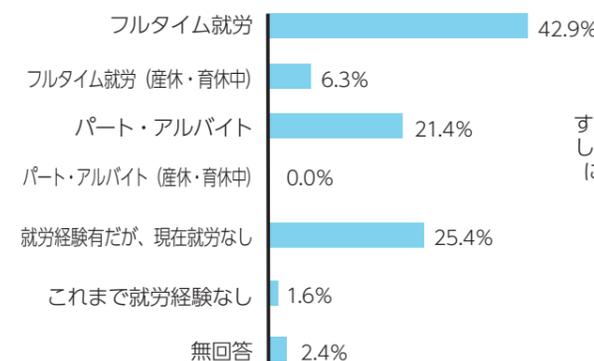
Q. 子育てで力をいれていること（複数選択可/上位7項目）



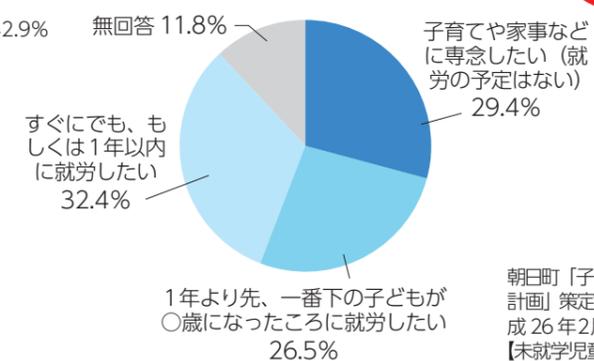
Q. 今後町が注力すべき子育て支援（複数選択可/上位7項目）



Q. 母親の就労状況について



Q. 母親の就労希望



データで見る



朝日町「子ども・子育て支援事業計画」策定に係るニーズ調査（平成26年2月実施）より
【未就学児童の親：126人が回答】

参加してみよう!

親子で楽しむ講座

ベビーマッサージ講座



ベビーマッサージを通して、親子のコミュニケーションと絆を深めます。

- ◆実施日…年2回程度
- ◆場 所…子育て支援センター
- ◆対 象…1歳未満の乳児と保護者
- ◆問合せ…健康福祉課 ☎67-2116

ブックスタート



抱っこして絵本を開き、赤ちゃんに語りかける読み聞かせ講座と、ブックリストを配布しての絵本プレゼントがあります。

- ◆実施日…年6回程度(もぐもぐ相談と同時実施)
- ◆場 所…子育て支援センター
- ◆対 象…6~7カ月の乳児と保護者
- ◆問合せ…教育文化課 ☎67-2118

あさひ保育園の遊具(広場)が日曜日に開放されています!



保育園が閉園の日曜日に、園の遊具を開放しています。ぜひご利用ください。



1. ママと一緒に工作中だよ 2. カラフルな風せんオバケがお出むかえ
3. 音楽に合わせてみんなでダンス!
4. 「はいチーズ!」カボチャ帽子でおしゃれはバッチリ 5. 「トリック オア トリート!!」の合言葉、言えるかな?



- ・たいそうの日(毎週月曜日)
- ・わくわくの日(月1~2回/不定期)
- ・えほんの日(月1回/不定期の水曜日)
- ・たんじょう会(月1回/最終の金曜日)



※予定は変更となる場合があります。詳しくはセンターだより(センターで配布のほか町ホームページでPDF配布)でご確認ください。

小学校低学年までのお子さんと保護者を対象に開放されている施設です。誰でも自由に利用ができ、「わくわくの日」以外も、毎月の相談日や読み聞かせなど、様々な事業を実施しています。また、アスレチック遊具やおもちゃ、絵本など、設備も充実。土日も開館(第3日曜日のみ休館)しているので、普段は働いているママ・パパも利用しやすく、午前中は特に賑わいます。

「ここに来ればお友だちに会える」「情報交換ができる」「お部屋の温度も快適で、安心して遊べる」と、利用者の声。子どもだけでなく大人も気軽に集える交流スペース「子育て支援センターあさひ」をぜひご利用ください。

子どもも大人も集って安心 みんなの交流スペース

子育て支援センターあさひ

DATA

開館時間…9:30~16:45
休館日…毎週木曜日、第3日曜日、
12月29日~1月3日、
その他 健診時
利用料…無料(申込み不要)
問合せ…☎67-2268

気軽にご利用ください!



子育て支援センター保育士
小林真理さん 長岡愛美さん

季節に合わせた特別なイベントデー

10月31日、子育て支援センターあさひで「わくわくハロウィン」が開催されています(写真上)。画用紙でカボチャの帽子とコウモリのカバンを作ったり、ハロウィンの歌を歌ってダンスを踊ったり、子どもたちも楽しんでます。

毎月1回程度、様々なレクリエーションが行われる「わくわくの日」は、今年度から始まった事業。センター常駐の保育士、小林真理さんと長岡愛美さんが企画し、運営まで行っています。

「大変好評で、毎回町内外から20組程度の参加があります。参加費や申し込みも不要ですので、ぜひこれをきっかけに足を運んでもらえたら」と、お2人は笑顔で語ります。

遊び場充実、気軽に集える憩いの場

子育て支援センターは、乳幼児から

飲食OKの喫茶コーナー



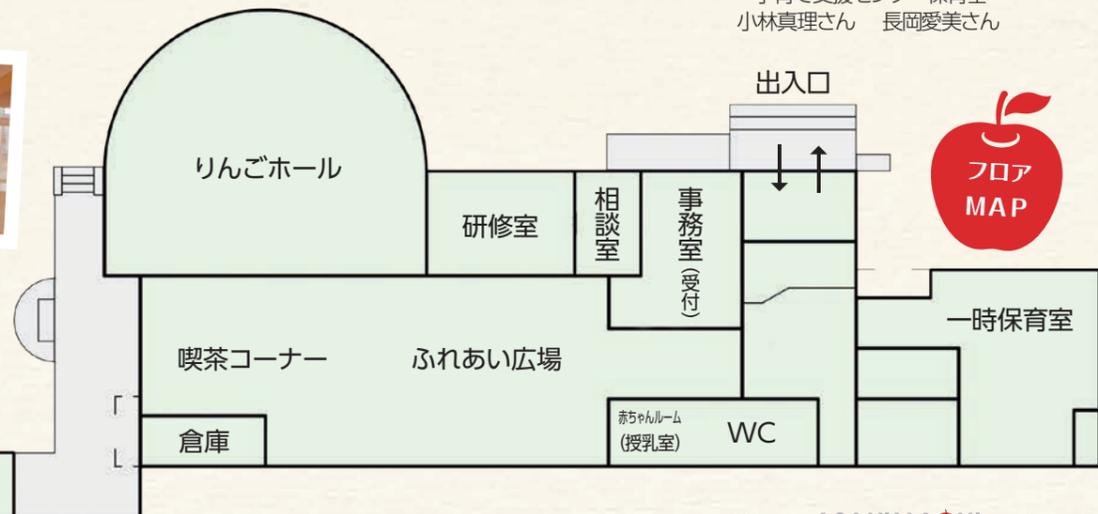
ホールには大きなアスレチックが



トランポリンもあるよ



ふれあい広場は憩いの場



海外派遣事業での学びを派遣中学生が発表 朝日町青少年健全育成町民大会

■教育文化課 生涯学習係 ☎67-2118



英語のほか、外国語で堂々と再現劇を披露する派遣生6人



町青少年育成町民会議会長遠藤康男氏のあいさつ（写真左）。記念講演を行った田澤雄作氏（写真右）

今年度の町青少年健全育成町民大会「あさひ教育の日」記念講演会が10月14日、創遊館で開催され、各地域・団体の代表者、学校、教育行政関係者など約250人が参加しました。

11月1日の「あさひ教育の日」にちなんで、毎年この時期に開かれている大会。「育てよう生きる力」をテーマに、町民一丸となって、町の宝である子どもたちの教育と環境について考えます。

記念発表では、今年初めて実施された中学生海外派遣事業でアメリカに渡った派遣生6人が登壇。ホームステイや現地中学生との交流などを通して感じた学びを、再現劇などをまじえて堂々と発表しました。記念講演では、国立病院機構仙台医療センターで小児科医を務める田澤雄作氏が「メディアにむしばまれる子どもたち〜小児科医からのメッセージ」と題し講演。スマートフォンなど身近なメディアに親子のまなざしのコミュニケーションが奪われる危険性を訴え、参加者は真剣に聞き入っていました。

チャリティー義援金を被災地へ寄付

■西部公民館 ☎67-2208



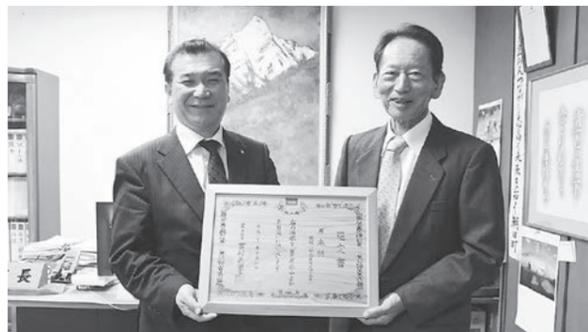
大会優勝者の志藤新助氏（中央）と西部地区愛好会代表の佐竹庄吉氏（右）

10月24日、「熊ノ山チャリティーグラウンドゴルフ大会」の震災義援金が町に届けられました。

東日本大震災後にチャリティー大会に変更し、今年で6回目。西部地区住民を中心に、熊ノ山農村公園でグラウンドゴルフを楽しむ愛好会など65人が参加。合計3万6800円を集めました。このお金は日本赤十字社を通して、震災被災地へ寄付されます。

「五本樋」(ハツ沼) が里の名水に選定

■総合産業課 交流観光係 ☎67-2113



選定の報告に訪れたハツ沼区長の佐竹幸一氏（右）

10月17日、「里の名水・やまがた百選」に「五本樋」(ハツ沼)が選定されました。

地域の人々に育まれた優れた湧き水等を、観光地として広くPRするために県が選定するもの。今年は13件の応募のうち、10件が選定されました。祠や湧き水を5本の樋に分けて流す景観の素晴らしさが評価された「五本樋」。今後は県が作成するパンフレット、ホームページ等で紹介されます。

平成28年度 朝日町自治功労者等表彰式

■総務課 庶務係 ☎67-2111

町の振興発展に貢献された方々を表彰する自治功労者等表彰式が11月4日、創遊館ホールで開催されました。今年度は6個人に対し、鈴木町長から表彰状が贈呈されました。



自治功労

相座孝雄氏（太郎二）

平成15年から12年間、朝日町選挙管理委員として公正な選挙執行と明るい選挙の推進に寄与。



教育功労

志藤靖則氏（能中）

平成6年から22年間、スポーツ推進委員として実技指導や組織育成をはじめ、地域におけるスポーツイベントへ参加し、社会体育の振興発展に寄与。



教育功労

鈴木記念子氏（大谷五）

平成14年から14年間、町芸術文化協議会茶道部裏千家「心和会」代表として、会の運営発展と後継者育成に尽力。同会理事として、芸術文化の振興発展に寄与。



社会福祉

小林秀子氏（西町）

平成13年から15年間、主任児童委員として子どもたちの見守り、子育てや妊娠中の心配ごとなどの相談支援を行い、児童福祉の向上に寄与。



社会福祉

藤沢盛治氏（杉山）

平成13年から15年間、民生児童委員として、要保護家庭の自立更生指導に尽力。平成25年から3年間、同協議会副会長として委員の指導に寄与。



社会福祉

渡邊滝子氏（元町）

平成16年から12年間、民生児童委員として、要保護家庭の自立更生指導に寄与。

秋葉山にソメイヨシノ20本を植樹 「最上川さくら回廊」植樹式

■総合産業課 交流観光係 ☎67-2113



10月29日、「最上川さくら回廊植樹式」が秋葉山で開催されました。「最上川沿いにさくら回廊をつくり、自然を愛する心を育てたい」として、山形新聞社と山形放送社が提唱する同事業。これに町が賛同し、また、昨年開催した「おやお理想みらい計画」ワークショップで「秋葉山の整備」について意見が出され、その第一歩として実現したものです。

当日はあいにくの強風でしたが、約120人の参加者がそれぞれスコップを持ちながら20本のソメイヨシノを植樹。植樹者代表あいさつとして「白山会」白田忠一代表（天谷二）は、「植えっぱなしにせず、将来みんなに愛される秋葉山にしていきたい」と語っていました。

	歳入(収入)	歳出(支出)	差引	町債現在高	積立金現在高
一般会計	57億7,744万	53億3,752万	4億3,992万	66億3,003万	27億2,720万
特別会計					
集落排水事業	2,127万	1,459万	668万	1,751万	1,938万
国民健康保険	12億654万	11億7,150万	3,504万	-	1億943万
介護保険	10億4,997万	10億3,156万	1,841万	-	6,485万
後期高齢者医療	7,916万	7,836万	80万	-	-
企業会計					
病院事業	(収益的収支) 6億6,257万	7億392万	△4,135万	4億314万	-
	(資本的収支) 3,121万	8,150万	△5,029万		
水道事業	(収益的収支) 1億6,590万	1億3,975万	2,615万	1億2,041万	1億7,889万
	(資本的収支) 155万	5,965万	△5,810万		

※水道事業・病院事業の収支不足額は、過年度分損益勘定留保資金等で補てん。全会計とも実質黒字または資金剰余となっている。

<p>■財政力指数 (△)</p> <p>標準的な行政活動を行う経費に、町税等の標準的な収入でどれだけ賄えるかを示す。1に近く1を超えるほど財源に余裕がある。</p> <p>朝日町 0.20 県内 22 町村の平均 0.26 (朝日町の順位) 良い方から 16 位</p>	<p>■経常収支比率 (△)</p> <p>経常的収入(町税、普通交付税等)から経常的支出(人件費、公債費、扶助費等の毎年必ず支払う経費)に充てられた割合を示す。値が低いほど自由に使える資金が多い。</p> <p>朝日町 84.5% 県内 22 町村の平均 84.7% (朝日町の順位) 良い方から 11 位</p>	<p>■実質赤字比率 (◎)</p> <p>一般会計等に係る実質赤字額の標準財政規模(税+交付税+臨時財政対策債)に対する比率</p> <p>朝日町 1% 県内 22 町村の平均 1% (全市町村黒字のため比率なし)</p>
<p>■連結実質赤字比率 (◎)</p> <p>全会計に係る実質赤字額の標準財政規模に対する比率。</p> <p>朝日町 1% 県内 22 町村の平均 1% (全市町村黒字のため比率なし)</p>	<p>■実質公債費比率 (◎)</p> <p>一般会計等が負担する公債費(借金の返済)等に充てた一般財源の、標準財政規模に対する比率。高いほど公債費の割合が高く、財政を圧迫していることで、18%を超えると町債発行に県の許可が必要となる。</p> <p>朝日町 0.9% 県内 22 町村の平均 8.8% (朝日町の順位) 良い方から 1 位</p>	<p>■将来負担比率 (◎)</p> <p>一般会計等が将来負担すべき債務(借金等)の標準財政規模に対する比率。比率が高いと、将来これらを実際に支払う必要がある。今後の財政運営が圧迫される可能性が高いことを示す。</p> <p>朝日町 1% 県内 22 町村の平均 58.8% (朝日町の順位) 良い方から 1 位</p>

(※1) 指標は「地方財政状況調査」「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」をもとにしています。
(※2) 県内町村、類似団体の各種比率は、単純平均です。

朝日町の状況と今後の取り組み

朝日町の実質公債費比率、将来負担比率は、早期健全化基準を大きく下回り、県内町村の中でトップクラスの「健全段階」と言えます。
しかし、財政状況を考えるときは、他の財政指標等も考慮しなければなりません。当町は特に財政力指数、経常収支比率が良くありません。これまで人件費・公債費等

の経常経費の削減に努めてきましたが、少子高齢化・定住・経済対策等に要する経費の増加、更には景気低迷・人口減少による町税や地方交付税の伸び悩みにより、今後とも厳しい財政運営となる見込みです。
持続可能な財政運営を行うため、引き続き財政の健全性を保つよう努める必要があります。

平成27年度

決算報告

一般会計全体

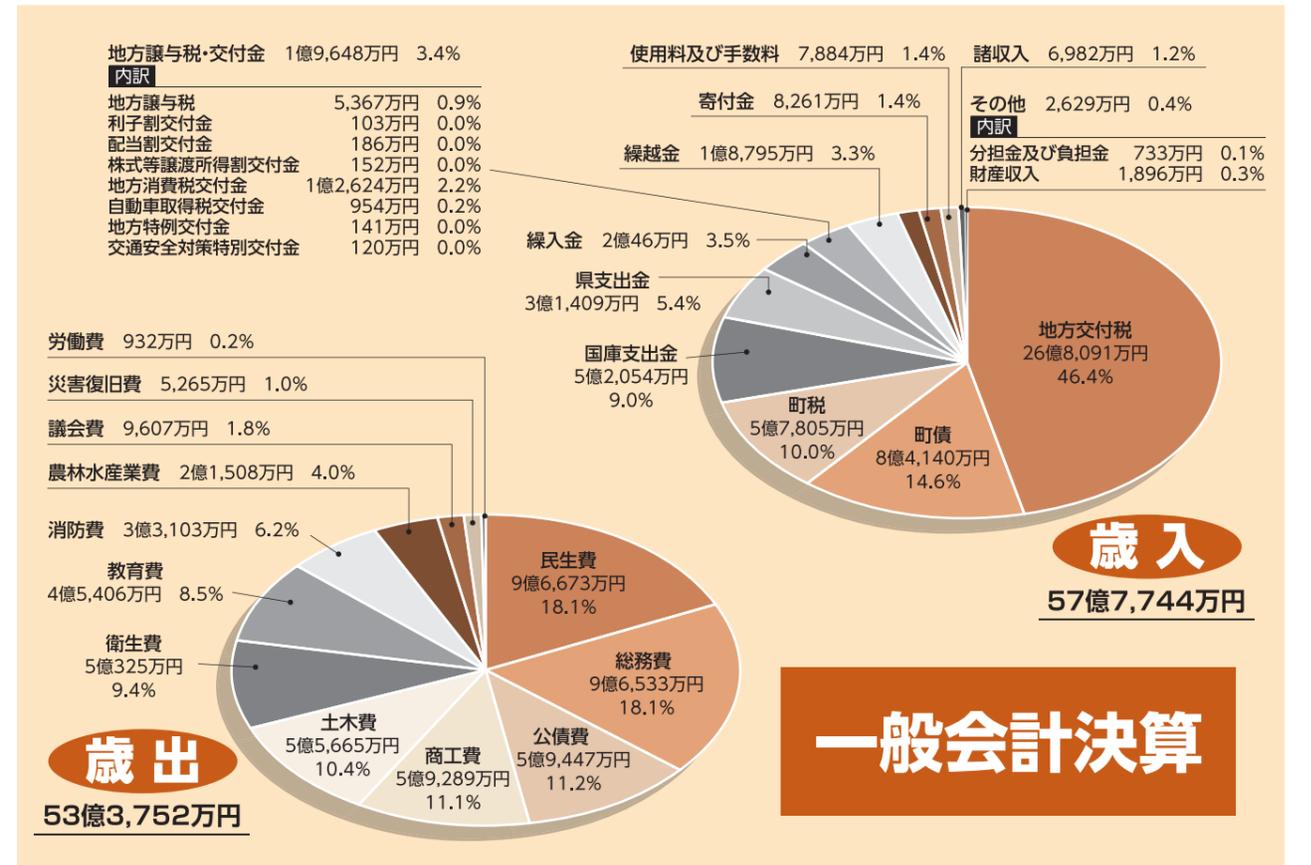
一般会計の歳入は、57億7,744万円(対前年度比0.3%の減)、歳出は53億3,752万円(対前年度比0.3%の減)となり、歳入歳出差引残額が4億3,992万円となりました。
この残額のうち、事業が終わらないため翌年度に繰り越して使うお金4,491万円を差し引いた中から、財政調整基金に2億5,000万円を積み立て、1億4,501万円を平成28年度に繰り越しました。

歳入

町税は、震災後の復興に係る需要が落ち着いたことによる法人町民税の減少、評価替えによる固定資産税の減収の影響などにより1,947万円の減となりました。
一方、歳入のほぼ半分を占める地方交付税は、普通交付税の増により3,228万円の増。国・県支出金は、地方創生のための交付金が増、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金や社会資本整備総合交付金が減で2,998万円の増。全体では昨年度と比較して約2,580万円、0.3%の減となりました。

歳出

商工費は総合交流拠点施設整備事業により1億6,356万円の増、総務費はふるさと納税の増加に伴う基金や、防犯灯LED化推進事業の実施等の増により1億5,269万円の増、消防費は防災行政無線整備事業により1億3,285万円の増となりました。
一方、土木費は公営住宅建築事業の完了等による減で3億8,202万円の減となりました。
歳出全体では、昨年度と比較して約1,800万円、0.3%の減となりました。





ホームページに写真



ホームページに写真



11/2
~3

日頃の活動の成果を発表

第52回 朝日町芸術文化祭

52回目を数える町芸術文化祭が11月2日・3日の両日、創遊館・西部公民館・北部公民館、杉山公民館(移動芸能発表)を会場に開催されました。

今年度、町芸術文化協議会に加盟しているのは、30団体、3個人で、会員総数は335人。それぞれの会員がステージで、そして展示で日ごろの活動の成果を発表し、多くの町民が芸術の秋を楽しみました。

なお、式典の中では、鈴木記念子さん(大谷五)に「あさひ芸術文化賞感謝状」、渡邊定雄さん(四ノ沢)、菅井和夫さん(宿)に「あさひ芸術文化奨励賞」が贈られました。



■総合成績

順位	チーム名	記録
1位	大谷風	1時間 31分 11秒
2位	宮宿A	1時間 32分 52秒
3位	三中	1時間 36分 33秒
4位	宮宿B	1時間 37分 09秒
5位	中沢・玉ノ井	1時間 37分 17秒
6位	和合水上	1時間 42分 34秒

■区間賞

(※は区間新記録)

区間	選手名	チーム名	記録
1区(1.5km)	若月 怜音	三中	5分 43秒
2区(3.7km)	堀 博道	中沢・玉ノ井	11分 43秒
3区(2.7km)	鈴木 滯弥	和合水上	9分 02秒
4区(1.2km)	渡邊 志野	宮宿B	4分 35秒
5区(2.2km)	鈴木 勝太	大谷風	7分 24秒
6区(1.4km)	長岡 桜子	和合水上	6分 14秒
7区(3.6km)	櫻井 豊	大谷風	※10分 59秒
8区(1.6km)	長岡 結衣	大谷風	7分 08秒
9区(2.3km)	長岡 真生	太郎	8分 10秒
10区(1.2km)	遠藤 千優	中沢・玉ノ井	4分 38秒
11区(3.6km)	安藤 茂昭	上郷	12分 13秒

10/9

大谷風が8年ぶりの優勝

第33回アップル町民駅伝

町特産のりんごの季節を彩る「第33回 アップル町民駅伝競走大会」が10月9日に開催され、11チームが25.0キロ、11区間をタスキでつなぎました。

今年のレースは、現在3年連続優勝を手に入れている「宮宿A」を中心に、6回連続準優勝中の「大谷風」が今年こそはと意気込み、昨年3位の「上郷」が虎視眈々と王者奪還を狙う展開が予想されました。

午前9時30分にスタートの号砲が鳴ると、序盤は「中沢・玉ノ井」・「大谷風」・「宮宿A」の3チームによる接戦が繰り広げられます。トップ争いはこの3チームに絞られたかと思われましたが、7区で5位を走っていた「三中」の安藤剛志選手が2人を抜き3位に浮上、また同区「大谷風」の櫻井豊選手が区間新記録の走りを見せ、他チームとの差を広げていきました。トップを追いかける2位「宮宿A」・3位「三中」が離されまいと食い下がり、タスキはアンカーに託されます。

懸命に追いかける2位の「宮宿A」。昨年も同チームアンカーを務めた長岡輝喜選手が猛追しましたが、「大谷風」の白田誠選手が1分41秒差で逃げ切りフィニッシュ。「大谷風」が8年ぶりに念願の優勝を達成しました。



10/8 世界的即興チェリストが再び来町公演
吉川よしひろ氏 チェロコンサート

10月8日、ジャズ演奏者 吉川よしひろ氏のチェロコンサートが町内3カ所で行われました。吉川氏は鶴岡市出身で、生まれつき左耳に聴覚障害を持ちながら、音楽家として世界で活躍しています。

町での公演は平成22年の人権啓発・心のふれあいコンサート、東日本大震災後の訪問に続いて3回目。Asahi自然観ではディナーショーのほか、福島県の震災被災家族を対象にした週末キャンプ「森の休日」(主催:葉っぱ塾/八木文明会長)で癒しの音楽を披露しました。



10/10 10年間の活動で、542戸789箇所に技能提供
町建設総合組合「感謝ボランティア」

朝日町建設総合組合(安藤英雄組合長)による「感謝ボランティア」が10月10日行われ、今年は45戸50箇所の申し込みにも組合員28人が対応しました。お客様である町民への感謝と、地元職人のPRのため、75歳以上で一人・二人暮らし世帯の希望者を対象に実施。10年目となる今年でボランティアでの活動は一区切りとなりますが、安藤組合長は「今後も修繕や庭木の手入れなどでお困りの際には、気軽に相談してほしい」と語っていました。



10/12 町シルバー人材センターが8年間無事故
「安全就業特別賞」を受賞

県シルバー人材センター連合会による安全就業推進大会が10月11日山形市で開催され、朝日町シルバー人材センターが「安全就業特別賞(8年間無事故)」の表彰を受けました。

今年度、同表彰を受けたのは中山町(3年間無事故)と当町のシルバー人材センターのみ。12日、報告のため町長室を訪れた同センターの藤沢盛治理事長は、鈴木町長に日頃の安全確保の取り組みを報告するとともに、無事故期間のさらなる更新を誓いました。



10/15 6年後の成人式で美味しいワインを
朝日中3年生親子ブドウ収穫体験

10月15日、朝日中3年生の親子学年行事として「ブドウの収穫体験会」が朝日町ワイン内の園地で行われ、52組の親子が参加しました。町の特産品であるワインを通じて郷土理解と愛着を深めようといわれているもの。収穫されたのは「メルロー」という赤ワインの原料で、このブドウから造られるワインは6年後の成人式で記念に贈られることになっています。6年後、再会する仲間同士で大人の味を楽しみます。



10/10 「大谷理想みらいワークショップ」をきっかけに実施
大谷連合区「芋煮会」

10月10日、大谷連合区芋煮会が秋葉山交遊館の芝生広場で行われ、大谷7地区の住民など約300人が参加しました。

昨年開催の「おや理想みらい計画」ワークショップで出た意見をきっかけに実施。大谷地区住民が一体で取り組み、交流できるイベントを増やしたいというもので、連合区所有の耕作放棄地を活用し、全区協力で里芋を栽培。収穫した約300kgの里芋を芋煮で楽しみ、結束と交流を深めました。

また、当日は1人ひとりに行き渡るほどの、チーズの差し入れが届いていました。これは、栃木県那須町の和田輝勝(わだてるかつ)氏から送られたもの。同県那須町には旧大谷村から移り住んだ方々が多くおり、「那須大谷開拓村酪農組合」として村の開拓と酪農を行っていました。近年、組合は解散となりましたが、和田氏は現在も酪農を続けており、この度、故郷の大谷区への想いから、町へ多くの乳製品を届けてくれたものです。ありがとうございます!



▲那須大谷村との絆、和田氏からの心づかいに感謝しながら味わいます
◀「おいし〜い!」みんなで育てた里芋を頬張ってニコリ笑顔



10/29 石巻市女川町の震災被災者を招待
被災地との絆深める朝日中文化祭

10月29日に行われた朝日中学校創立40周年記念文化祭に、石巻市の仮設住宅に身を寄せている女川町蟹田・内田の両地区の被災者が招待され、生徒との交流を深めました。

両地区の住民と文通を始めて5年目、文化祭への招待は3年目となる同校。「震災、そして被災者の皆さんのことを私たちは忘れません」というメッセージを送りつづけることで傷ついた心を励まそうと始めたもので、文通は互いの街を行き来する交流へと発展し、その絆はより深いものとなっています。

今回は22人が町を来訪。過去に生徒会役員などを務めていた3人の卒業生も駆けつけ、再会を喜び合いました。生徒たちによる学習発表では、吹奏楽やハンドベルの演奏のほか、総合授業で学習した送橋神明こぶし太鼓や豊龍神社祭り囃子、昔語りなどを発表。昼食を各教室で一緒に楽しんだ後、合唱コンクールでは自慢の歌声を披露しました。生徒たちと1日交流を深めた女川町の皆さんは、全校生徒に見送られながら「来年もまた来ます」と笑顔で手を振っていました。





10/23 朝日町の神社・御堂を巡る
「神・仏まいり」～其の壱 西部編～

10月23日、町エコミュージアム協会主催の「神・仏まいり」が開催され、町内外から約20人が参加しました。
町の神社・御堂を巡る見学会で、今回は西部地区から選定した10ヶ所を訪問。古くは戦国時代から歴史が続く神社や、中には同じ棟梁が建てた神社などもあり、参加者は案内人の説明に熱心に耳を傾けていました。この見学会は3カ年に渡り開催を予定。29年度は中部地区を巡ります。



10/23 秋の収穫に感謝し、商店街に賑わいを
「豊玉姫まつり」収穫感謝祭

「豊玉姫まつり」収穫感謝祭が10月23日、「蔵のひろば」周辺で開催され、町内外から約400人が訪れました。
このまつりは、農耕の神様「豊玉姫」が祀られている豊龍神社の門前町・宮宿地内に賑わいを取り戻そうと、宮宿中央通り商業振興会（多田孝雄会長）を中心に企画されたもの。
今年も杵つき餅や芋煮が振る舞われたほか、宮宿小豊年太鼓や三味線の演奏があり、商店街は活気に溢れました。



10/23 「お菓子をくれなきゃイタズラするぞ！」
商店街でハロウィンイベント

町ALTマーティー先生によるハロウィンイベント「Trick or Treat！（トリックオアトリート）パート4」が10月23日、宮宿商店街で行われ、64人の子どもたちが参加しました。
かぼちゃのお化けや魔女、海賊などに仮装した子どもたちは、「Trick or Treat！（お菓子をくれなきゃイタズラするぞ）」の掛け声でお店（協力事業所17カ所）を訪ね、お菓子をおねだり。袋にたくさんのお菓子を詰め込んで嬉しそうな様子でした。



10/23 手づくりのゴールから始まった交流大会
第11回フットサル de 交流会

西部公民館が主催する「フットサル de 交流会」が10月23日、町健康増進センターで開催され、4チーム26人が参加しました。
スポーツを通して若者が集い、交流できる場として実施して11回目。手づくりのゴールを始め、開閉会式の進行や審判長も、すべて参加者が協力して担当しています。今回は4チーム総当り戦で、見事大会を制したのは、佐藤高章主将（前田沢）率いるチーム「モンデミロ」でした。



10/15 りんごの収穫と芋煮会で深める友情と交流
海の子山の子交流会「山の集い」

友好の町・宮城県七ヶ浜町と交流を深めるため「海の子・山の子交流会」の「山の集い」が10月15日に行われました。
七ヶ浜町立汐見小の5・6年生19人が来町し、西五百川小5・6年生が交流。はじめに汐見小児童から手づくりの観光パンフレットが贈呈されたほか、夏草地内の園地でシナノスイートのもぎ取りを体験しました。昼食は秋晴れのもと西五百川小校庭で芋煮会、その後は上郷ダム発電所の見学など、朝日町の秋を満喫しました。



10/15 きれいな道で、気持ちよくお出迎え
寒河江地区衛生協議会「ボランティア清掃」

寒河江地区衛生協議会（設楽光利会長／寒河江市）によるボランティア清掃が、10月15日、道の駅あさひまち「りんごの森」周辺で実施されました。
春夏、年2回行われているもので、同協議会員など約20人が参加。「元々ゴミが少なかったこともあり、きれいな道になりました。道の駅を訪れる方々に、気持ちよく利用してもらえたら嬉しいです」と、参加者の1人は笑顔で話していました。



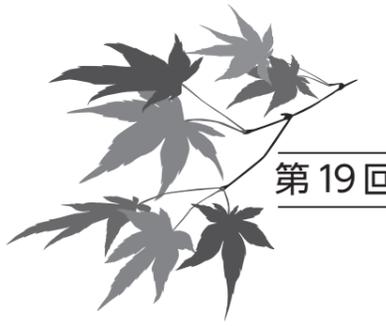
10/16 美味しいふじりんごの収穫を願って
りんごの樹オーナー収穫祈願祭

一口50,000円でりんご（ふじ）の樹丸ごと1本のオーナーになれる「りんごの樹オーナー制」。10月16日、今年の収穫祈願祭が開催され、オーナー登録者67人のうち33人とその家族など146人が参加しました。
午前中に園地で最後の体験作業となる「玉返し」を行ったあと、秋葉山交遊館に場所を移動。収穫を祈願する杵つき餅やりんごの皮早むき競争、なめこ汁の振る舞いなどを楽しみました。



10/16 「モチベーションアップ」の方法を多方面から学ぶ
第2回ブランド大学アンコール

第2回あさひまちブランド大学アンコールが10月16日、創遊館で行われ、町内外から約50人が参加しました。
今回のテーマは「モチベーションアップ」。町ブランド化推進プロデューサー村尾隆介氏のほか4人の講師が登場し、町内からも自衛官として働く菅井奈穂さん（大町）が「ブランド大学で学んだからこそわかった～仕事でも使えるモチベーションアップ術～」と題して講演し、大きな拍手が送られていました。次回の開催は2月19日です。



ひめさゆり 俳句大会

町内小中学生を対象にしたひめさゆり俳句大会が今年も実施され、応募総数1,008句(456人)の審査結果がこのほど発表されました。審査員は日本現代俳句協会の佐竹伸一氏(常盤)と山形県俳句協会の岩崎たか彦氏(高田)が務め、次の句が金賞・銀賞に選ばれています。このほかの入選作品については、今後お知らせ板で紹介しします。

▼金賞 (佐竹伸一氏選)

オニヤンマ自まん気な顔サングラス
西五百川小6年 多田馨太

▼金賞 (岩崎たか彦氏選)

夏の昼枕替わりの参考書
朝日中3年 長岡理々子

▼銀賞 (佐竹伸一氏選)

じいちゃんのはたけはつちのやおやさん
西五百川小1年 ふせみのり

くまんばち丸い体はチョコボール
大谷小5年 遠藤美咲樹

夏の昼枕替わりの参考書

朝日中3年 長岡理々子

▼銀賞 (岩崎たか彦氏選)

スズミンがすすきのしきでコンサート
西五百川小5年 伊藤真菜実

夏の夜に花火と共に消える恋

朝日中2年 安達裕大

オニヤンマ自まん気な顔サングラス
西五百川小6年 多田馨太

審査を終えて

佐竹伸一氏

金賞の多田さんの句。オニヤンマの目はサングラスだと捉え、その顔が自慢気だと表現しました。この句は上五中七と下五の間に「切れ」があり、上五・中七と下五を響き合わせる見事な構成です。

続いて銀賞の句。ふせさんの句には季節感がありませんが、たくさんの野菜が途切れなく収穫される季節感があります。畑を八百屋たとえ、おじいさんの腕のよさや畑の様子が見える句です。遠藤さんの句。花の蜜や花粉をえさにするおとなしい「くまんばち(熊蜂)」には、チョコボールの可愛らしさなどがびつたりですね。長岡さんの句。部活動が終わる受験勉強に専念し始めた夏の昼間。頭を休ませるにはちょうど良い厚さの参考書だったようで、そのまま眠ってしまったのかな、という想像をさせてくれます。

今年には俳句のつくり方のプリントを各学校にお配りしました。参考にしていただき、素材をよく見つめ自分らしく表現した俳句を、これからもたくさん作ってください。

岩崎たか彦氏

いつもながら選考の最後は、オリンピックではないけれども金賞をどちらにするか、迷い考えさせられます。わずかの差です。

金賞に選んだ長岡さんの句。夏の昼の午後、勉強中に睡魔に襲われ、つい眠り込んでしまっただけ。けだるい夏の情景が見えます。

銀賞とした伊藤さんの句。さすがに風にゆれて虫すだく土手。ゆるるすきが指揮棒に見えた。この着想がいい。安達さんの句。思春期そのものの句だ。とてもいいよ。気持ち、よく分かる。私もその頃を思い出すなあ。

賞にはもれたが、宮宿小1年のあざがみしゅうくん句。「あおぞらはどうしてあおぞらなんだろう」。とても無邪気な句でいい。この空は夏の空かなあ、秋の空かなあ、観察をつけていろいろ調べてみてください。

俳句は自分の日頃からの思いがあるから観察でき、そして、着想、発想、発見につながり、そして自分らしい言葉で表現できるのです。



町地域おこし協力隊、緑のふるさと協力隊員と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平まちづくり総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

先日、朝日町協力隊に着任しました石井応宝(いしいまさとも)です。9月から白倉区の協力隊として活動しています。出身は東京ですが、父親が大谷地区出身なので、私のルーツは朝日町大谷にあります。

親戚のほとんどは今も山形県内に住んでいるので、新天地に赴いたという感じはありません。町から見る山々の景色や山形弁は郷愁感に溢れ、幼い頃、祖父母の家に泊まりに来た思い出と共に多くのものが、心ななせとてくれます。たとえば、先日白倉区で見た夜空は、きらめく星々に満たされていて見とれて

住居改修で「居心地よい暮らし」のモデルづくりを

朝日町協力隊(地域おこし協力隊) 石井 応宝 (東京都出身)



▲白倉区の皆さんと笑顔の石井隊員(写真中央)

まっほごでした。町民の皆さんにとって当たり前すぎて見過ごしている素晴らしいものが、すぐそばにある。それに気が付き、町の良き遺産として残すことが、私の役目の一つだと感じました。今、着任地で建築設計士の経験を活かし、古い住居の改修をしています。不便を解消するだけの安直な改修にとどめず、「居心地良く、暮らしを楽しめる空間づくり」のモデルとなることを目指します。その想いが朝日町すべての住まいに浸透し、さらに広がるように頑張りますので、よろしくお願ひします。

町立図書館新刊案内

「卑怯者の流儀」

深町 秋生 著



悪徳警察官のもとに飛び込んでくる数々の、黒い、依頼。解決のためには、組長を脅し、ソープ・キャバクラに足繁く通い、仲間の警察官への暴力も厭わない。「読楽」掲載に書下ろしを加えて書籍化。著者は山辺町在住。

第27回ひめさゆり俳句賞受賞作

「おならくらげ」 ささき あり 作 ザ・キャンピングカンパニー 絵



学校でカンタにのろまだと言われ、自分がいやになったヒロキ。くよくよしながらお風呂に入っている、おならがぶぶう。そこから出てきたのは、おならくらげ!? おならと笑顔がいつぱい楽しいお話。



【ブックテーマコーナー】
「山形県図書館大賞 2016」
ここに効く本 あなたを励ます一冊

MS(他の新刊)
▼黒い紙/道場勝一 ▼孤蓬のひと
▼葉室麟 ▼遠い唇/北村薫
▼白衣の嘘/長岡弘樹 ▼まことの
華姫/畠中恵 ▼オライオン飛行
▼高樹のぶ子 ▼湖底の城7巻/
宮城谷昌光 ▼最悪の將軍/朝井
まかて ▼氷の轍/桜木紫乃
▼デトロイト美術館の奇跡/原田マ
ハ ▼手のひらの京(みやこ)/
綿矢りさ ▼おんなの城/安部龍
太郎 ▼町の未来をこの手でつく
る/猪谷千香 ▼かぎ針で編むハ
ロウィン&クリスマスパターンパス
トセレクション ▼果実酒・果実酢
ジャム・シロップ/ワタナベマキ
▼ペコスのいつか母ちゃんにあり
がとう/岡野雄一 ▼しつけな
い道徳/尾木直樹 ▼ダンポー
ル織リテックニックBOOK/陰山
はるみ ▼りんごのお菓子/若山
曜子 ▼大癒見警部の事件簿リ
ターンズ/深水黎郎 ほか

戸籍のまど

Asahi town

10月1日～10月31日届出



Marriages

おしあわせに

白田 哲也 (大谷二)	♥	高橋 美幸 (東根市)
川口 靖晃 (大暮山)	♥	孫田 教子 (山形市)
白田 拓也 (大隅)	♥	渡邊 早苗 (寒河江市)

Obituaries

やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
能長	伊海	真一
大谷	藤野	本 人
西町	廣 ちよ子	きわ子
小原	瀬 茂 夫	賢 一
大谷	瀬 ちよ子	博
大谷	藤 久子	榮 一
大谷	佐藤 久子	康 弘
太郎	三ツ	勝
真中	志 藤	光 文
大谷	神 伏 雄	利 春
舟 渡	川 村 夫	秀 市
		本 人

掲載を希望しない場合は
届け出の際にお申し付けください

Population

人口と世帯数

●平成28年10月31日 現在
※()内は先月比

人口	7,258 人 (-14)
男	3,594 人 (-2)
女	3,664 人 (-12)
世帯数	2,484 世帯 (-7)

----- 10月中の異動 -----

出生	0人	転入	10人
死亡	14人	転出	10人

(※外国人を含む)

友好の町 七ヶ浜町で「文化交流」



10月30日、宮城県七ヶ浜町の芸術文化協会主催「第30回文化祭」に、朝日町柳香会(小野美代子代表)会員など13人が参加しました。友好の町として互いの町を往来するなど親交を深めてきた両町。文化交流を目的とした訪問は今回が2回目です。柳香会は舞台発表の10番目に登場し、3曲の舞を披露。大きな拍手と歓迎の言葉を受けていました。



JAによるカーブミラーの贈呈式

JAさがえ西村山(柴田清志代表理事組合長)によるカーブミラーの贈呈式が、10月21日、町長室で行われました。「地域の交通安全に役立ててほしい」と毎年行われているもの。今回は4基が寄贈されました。これらは今後、見通しが良くない交差点などに設置されます。

～お詫びと訂正～

本誌の先月号(2016年10月号)11頁の「職員の人事と給与等を公開します」記事で、「職員の学歴別初任給/技能労務職(高卒)」の金額を「137,600円」と記載しましたが、正しくは「142,000円」でした。
お詫びして訂正いたします。



冬のお風呂は危険がいっぱい! ～入浴の正しい知識を身につけよう～



今月の担当…太田 律 健康推進係長(保健師)

朝晩めっきり寒くなりまし
たね。体を温め、1日の疲れ
を癒してほっとできる空間が
「お風呂」。楽しんで入浴して
いますか?
実はこれからの季節、心配
なのが「高齢者の入浴事故」。
入浴中の死亡事故は全国で
年々増加傾向にあり(年間
約1万4000人)、その件
数はなんと交通事故死亡(年間
1万人)より多いのです。特
に冬季や寒冷地に多く、原因
は心肺停止、脳血管障害、失
神、溺水・溺死など。心肺停
止は自宅浴室での発生がほと
んどを占め、公衆浴場では少
ない傾向にあります。
では、なぜ「入浴事故」が
起きるのでしょうか。その原
因は「血圧の変動」です。寒
い脱衣所で衣服を脱ぎ、その
後急に熱い湯船に入ると、血
圧は激しく変動します。その
結果、入浴中あるいは入浴後
に意識障害を起こし、入浴事
故につながると言われていま
す。また、高齢になると自律
神経系の反応が低下したり、
高血圧症や糖尿病等の病気で

治療している方も多く、その
危険性はより高まります。そ
こで、安心して入浴していた
だために8つのポイントが
ありますのでご紹介します。

- ①体調が悪い時や、お酒を飲
んでからの入浴は控える
- ②脱衣所には暖房器を置くな
どとして、温度差に注意する
- ③お湯の温度は41度以下(熱
いお湯は血圧を上昇させるた
め)にする
- ④入浴前後は十分に水分補給
をする
- ⑤入浴前に「かけ湯」をする
- ⑥家族に一言かけてから入浴
する
- ⑦浴槽のふたを目の前に置き
(もしもの時はよりかかれま
す)、半身浴する
- ⑧あがる時はゆっくりと(急
に立ち上がると血圧が低下)

以上の点に注意して、安心
安全な入浴を楽しみましょう。

▼問合せ先
健康福祉課 健康推進係
☎67・2116

大谷小6年生「お仕事の授業」体験学習 新庄市イベントで「オーヤ商店」開店!

10月16日、新庄市で開催された「kito kitomaru」で、大谷小学校6年生が「オーヤ商店」を出店し、シナノスイートやりんごジュースなどを販売しました。
町の「特色ある学校づくり支援金」を活用し「ウサビの佐藤先生と考えるお仕事の授業」として、今年6月から取り組んできた学習の集大成。これまで実際にお店を開くことを目標に、お店のロゴや移動販売車のデザインをしたり、算数や社会など、普段の勉強を活かして利益を生む仕組みを考えたりと、計10回の授業の中で準備してきました。
当日販売したシナノスイート250個は、生徒たち自ら町の農家さんから仕入れたもの。笑顔の接客と試食の呼び込みなどでお店は大繁盛となり、午後1時過ぎには全商品が完売。生徒たちは達成感で誇らしげな様子でした。



ブナの森に小人の村があらわれた！

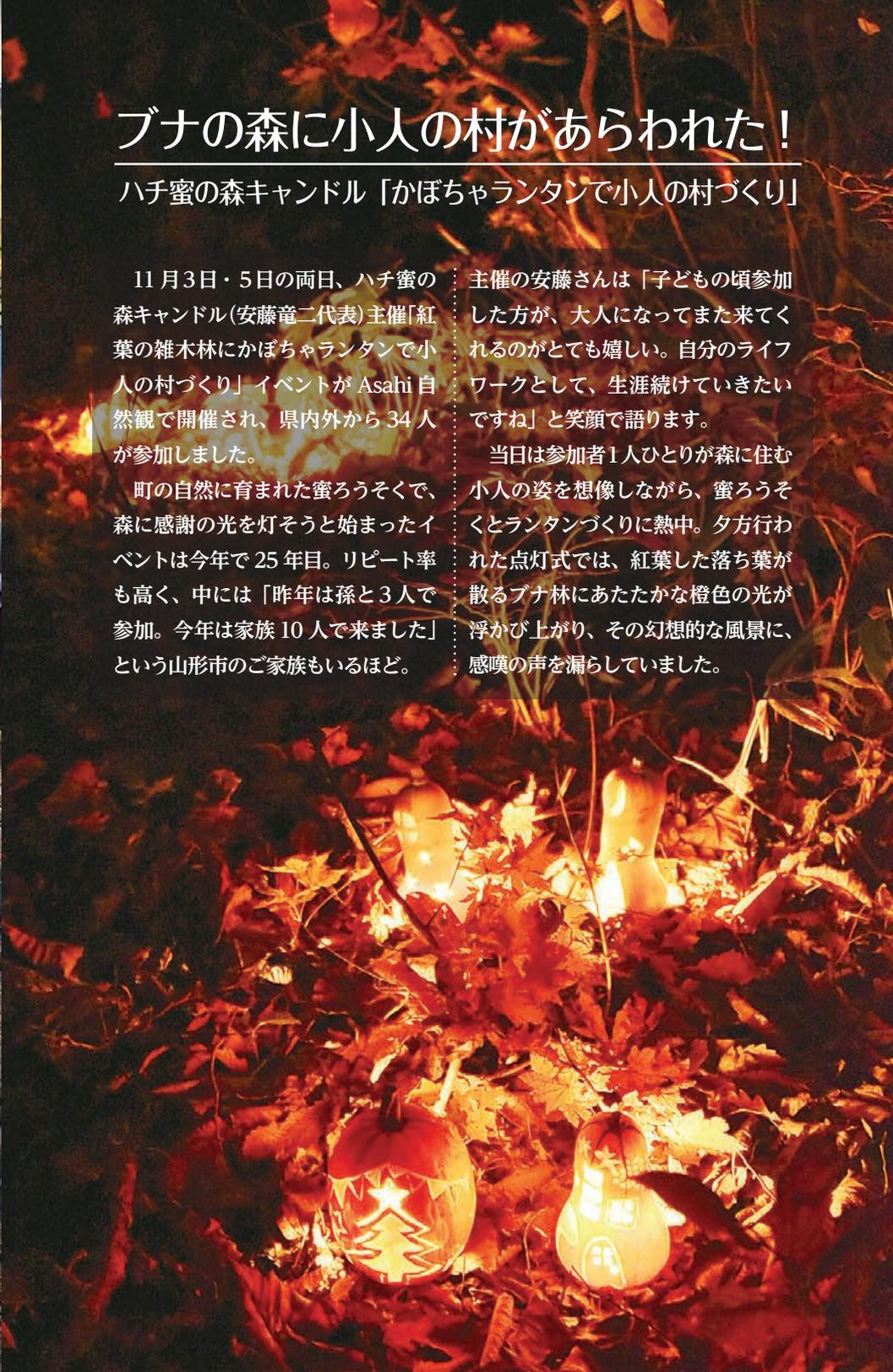
ハチ蜜の森キャンドル「かぼちゃランタンで小人の村づくり」

11月3日・5日の両日、ハチ蜜の森キャンドル(安藤竜二代表)主催「紅葉の雑木林にかぼちゃランタンで小人の村づくり」イベントがAsahi自然観で開催され、県内外から34人が参加しました。

町の自然に育まれた蜜ろうそくで、森に感謝の光を灯そうと始まったイベントは今年で25年目。リピート率も高く、中には「去年は孫と3人で参加。今年は家族10人で来ました」という山形市のご家族もいるほど。

主催の安藤さんは「子どもの頃参加した方が、大人になってまた来てくれるのがとても嬉しい。自分のライフワークとして、生涯続けていきたいですね」と笑顔で語ります。

当日は参加者1人ひとりが森に住む小人の姿を想像しながら、蜜ろうそくとランタンづくりに熱中。夕方行われた点灯式では、紅葉した落ち葉が散るブナ林にあたたかな橙色の光が浮かび上がり、その幻想的な風景に、感嘆の声を漏らしていました。



今月号の特集は子育て支援。子育て経験のない私ですが、もし子どもが産まれたらしてあげたいと思うことが一つあります。それは「かわいい」と「大好き」を声に出して伝えること。これは実際私が母にしてもらって嬉しかったことです。

共働きの両親は休みが不定期で帰日も遅く、幼い頃の家族旅行の思い出も数えるほどしかありません。でもこうして褒めてもらっていたし、兄弟や祖父母もいたので、さみしいと感じたことはありませんでした。

春夏秋冬 編集後記



小学生くらいになると恥ずかしさもありましたが、親に愛されているという安心感は、自分を強くしてくれたように思います。

話は変わりますが、中央の写真はこのたび完成した道の駅あさひまちのモニメントです。駐車場入口に設置され、夜間は小人が町のりんごをこっそり持ち出そうとしている様子が浮かび上がります。上記で紹介したキャンドルイベント然り、朝日町ではかわいい子どもたちのほかに、小さな住人たちも元気に育っているようです。 村山 彩